【佐久市】 校務DX計画

		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
共通項目	FAX・押印の原則廃止に取り組んだ学校の割合	0%	100%			
	不合理な手入力作業の一掃に取り組んだ学校の割合	100%				
	クラウド環境を活用した校務DXの徹底に取り組んだ学校の割合	100%				
選択項目	3.学校から保護者へ発信するお便り・配布物等をクラウドサービスを用いて一斉配信している学校の割合	35%	70%	100%		
	11.児童生徒への調査・アンケート等をクラウドサービスを用いて実施・集計している学校の割合	64%	80%	100%		
	21.教職員が作成した教材等をクラウド上で共有し活用している学校の割合	35%	70%	100%		
課題と解決策の具体	教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現する上で障害となる課題	・保護者・外部とのやり取りで押印・署名が必要な書類があることにより、書類の印刷、押印、スキャン、ファイリングといった作業負担が生じている。 ・学校から保護者へ発信するお便り・配布物等や、児童生徒への調査・アンケート等を紙ベースで印刷・配布していることにより、年々高騰している紙・インク代の負担が生じることや、配布作業等において教職員の負担となっている。 ・教職員が作成した教材が個々に保管されていることで、他の教職員との教材共有は行われず、情報が閉鎖的な状態であることや、同様の教材が複数の教職員によって重複して作成されるなど、非効率な状態である。				
	教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現する上で障害となる課題の解決策	・災害時や教育ネットワークの不具合時などFAXの方が電子メール等より合理的な場合を除き、FAX・押印の原則廃止に向けて、継続的な見直しを行うことで校務の効率化を図ることができる。 ・学校から保護者へ発信するお便り・配布物等や、児童生徒への調査・アンケート等を、クラウドサービスを用いてオンラインで配信・回収することにより、印刷コストの削減や、教職員の負担を軽減することができる。 ・教職員が作成した教材等をクラウド上で共有し管理・活用することで、学校を超えて、互いの教材を容易に参照・再利用できるようになり（学校間を結ぶGIGAポータルサイトのアクセスリンクを共有）、教材作成の効率化と質的向上が図れるだけでなく、組織全体の教育資源として教材を有効活用を図ることができる。				
	校務系ネットワーク・システム等の現状分析や、望ましい校務の在り方に関する検討の計画	・令和5年度に導入した校務支援システムを基盤として、校務データの適切な管理・運用方法を確立するため、先進自治体の事例を参考にしながら、現場の教職員の意見も取り入れつつ、実効性の高い校務DXの実現に向けた具体的な検討を進めていく。				